



寒い日が続いており園で飼育しているカメは12月の中旬あたりから冬眠を始めました。

現在幼稚園では「カメ・メダカ・ヌマエビ・カブトムシの幼虫」を飼育しており、子どもたちが積極的に飼育に関わってくれています。



～ 命の大切さ ～



生き物の世話をすることで、生き物に愛情を持って接することを学び、命と向き合うことになります。短命な生き物であれば、その死を目の当たりにすることもあります。

6月ごろ、園で飼っていた金魚「なっちゃん」が亡くなりました。いつも世話をしてくれていた幼児たちはすぐにお墓を作り、埋めてあげ両手を合わせて祈っていました。その姿を見た他の園児たちも一緒に祈る姿も見られました。何ヶ月も経った今も、お墓を見ると「なっちゃん天国で元気かな」と呟く幼児もいます。

そうした経験を通して、命の大切さを学んでいくことができます。



また、飼育している生き物を観察することは、生き物の行動や生態に興味をもつことにつながります。例えば、カブトムシは幼虫からサナギになったのちに成虫（カブトムシ）になります。成長とともに姿の変わっていく生き物を観察することで、生き物の不思議さや美しさに気付くいい経験となります。

生き物飼育を通じて豊かな心を育めるような環境作りを継続していきたいと思います。

<お知らせ>

カブトムシの幼虫が現在、幼稚園に25匹います！



お家で飼育をしてみたい方がいらっしゃいましたら職員までお声掛けください。